

保護犬・保護猫の未来

【アブストラクト】

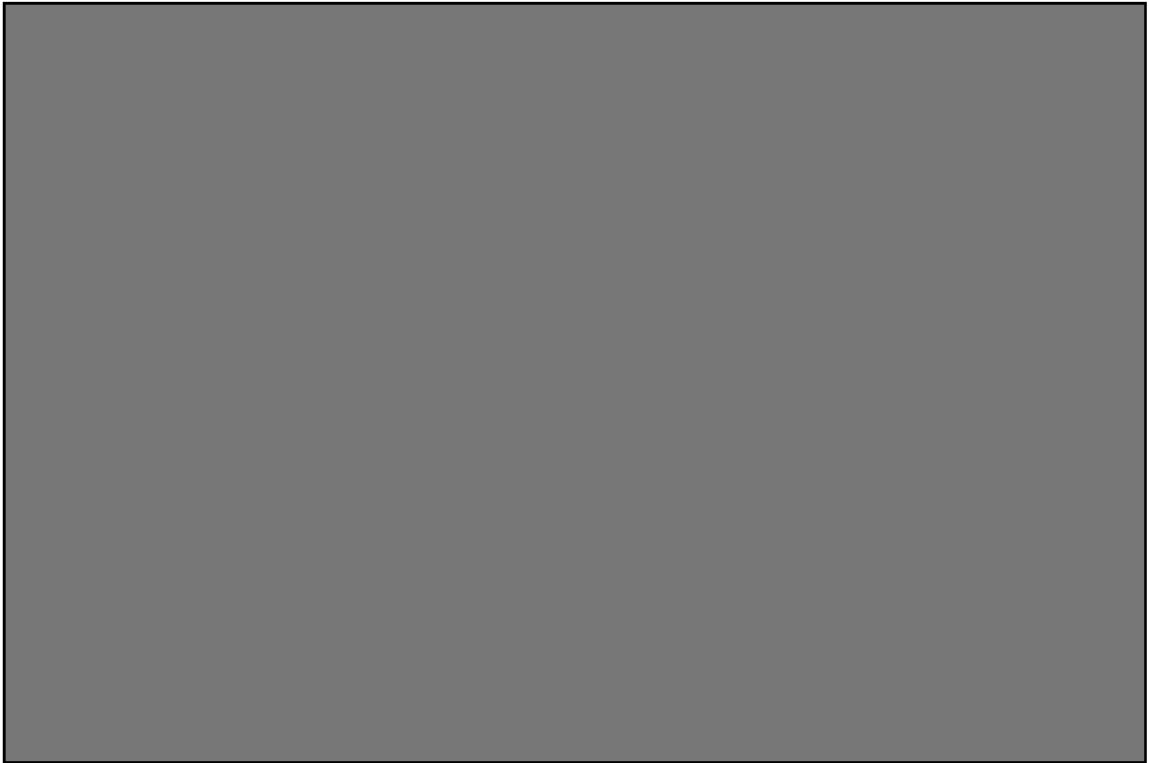
動物の大きな社会問題には殺処分があげられる。殺処分数を減らすためにも保護動物を飼うことは有効である。保護動物をもっと広めるために意識調査を行った結果、そこにいる動物へのイメージで「人に馴れていない」が最も懸念点であることがわかったため、実際に保護施設に訪問してお話を伺うと、イメージと全く異なる回答が得られた。保護動物への関心は高まってきているため、もっと多くの人に知ってもらうことが最善策だと考えた。

キーワード: 殺処分、保護動物、保護施設、ボランティア

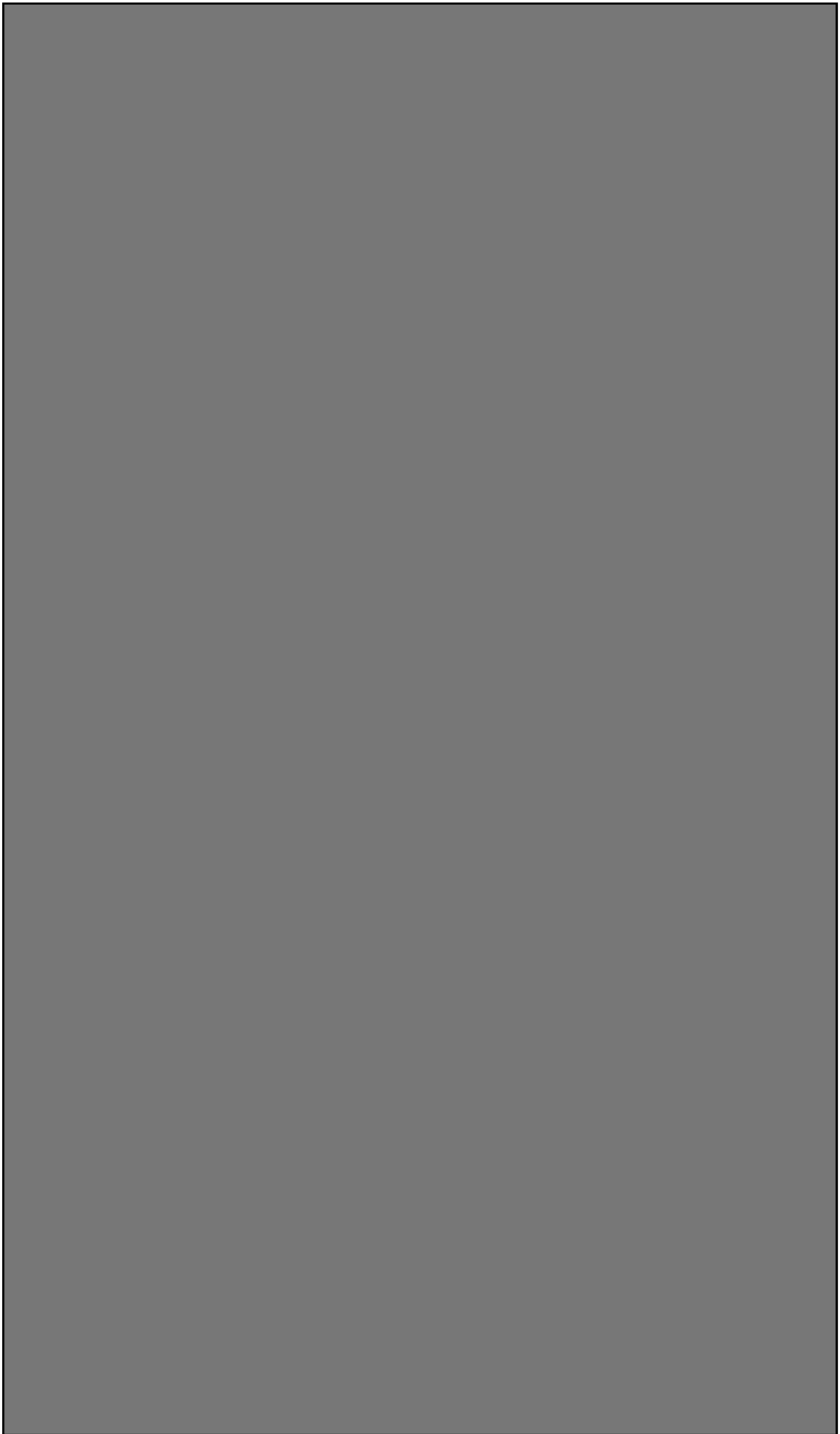
【本文】

I. はじめに

中学生の時受験勉強で読んだ英語の文章がずっと記憶に残っていた。それは、動物(主に犬と猫)についての殺処分の問題について話し合っている会話文だった。私は幼い頃から動物が大好きで、探究を始めるとなるときにはこれらの動物の社会問題について探究しようと心に決めていた。まず、具体的にどのような社会問題が起きているのか、宮城県図書館の新聞で探した。(図1,図2)そしてこれらの社会問題を減らすには高校生の私に何ができるのか検討した結果、保護動物の中でも飼っている人の数が多い犬と猫に注目して探究活動を行うことにした。



(図1) 毎日新聞 2022年7月1日



(図2) 毎日新聞 2021年11月25日(木)

II. 研究方法

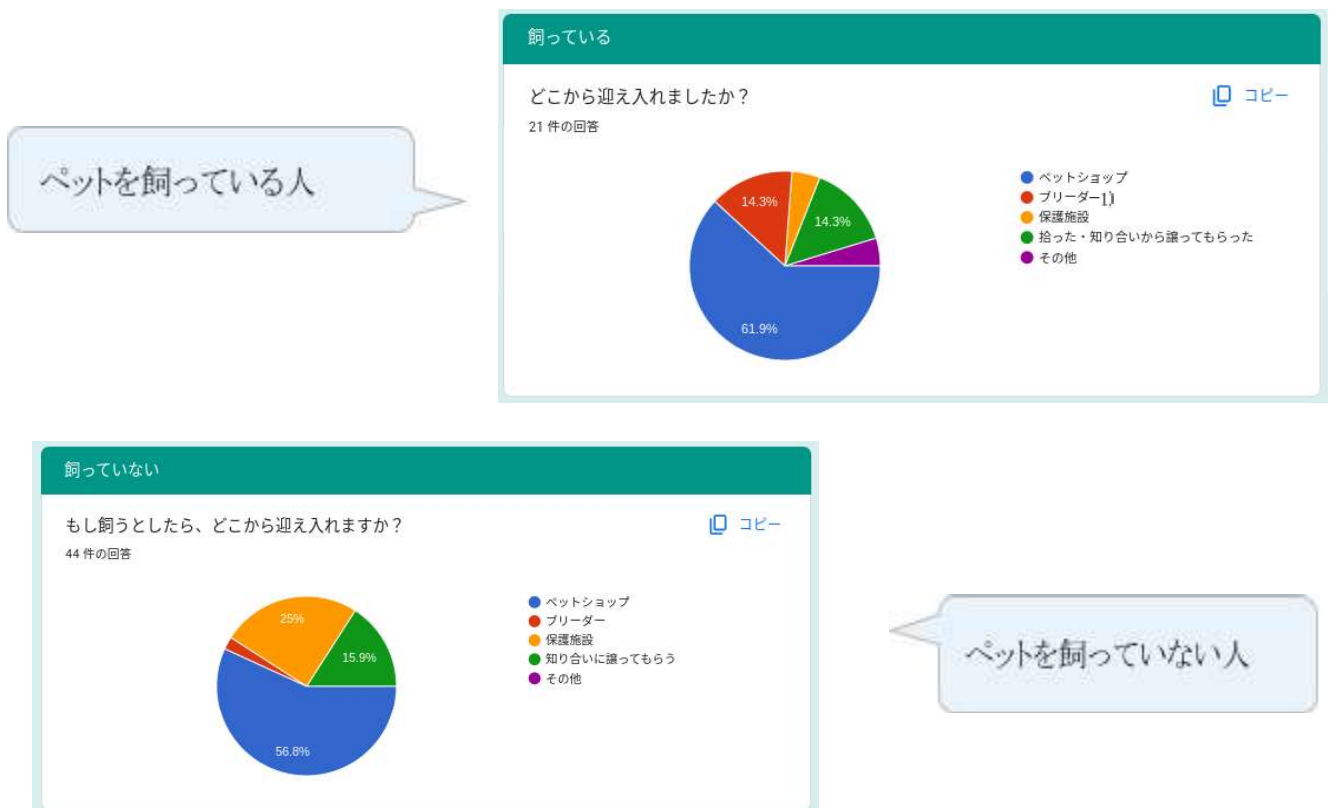
私のテーマは実験等で結果を出すものではないと考え、実際に保護施設にいる方にお話を伺って課題解決のための考察をしながら活動していた



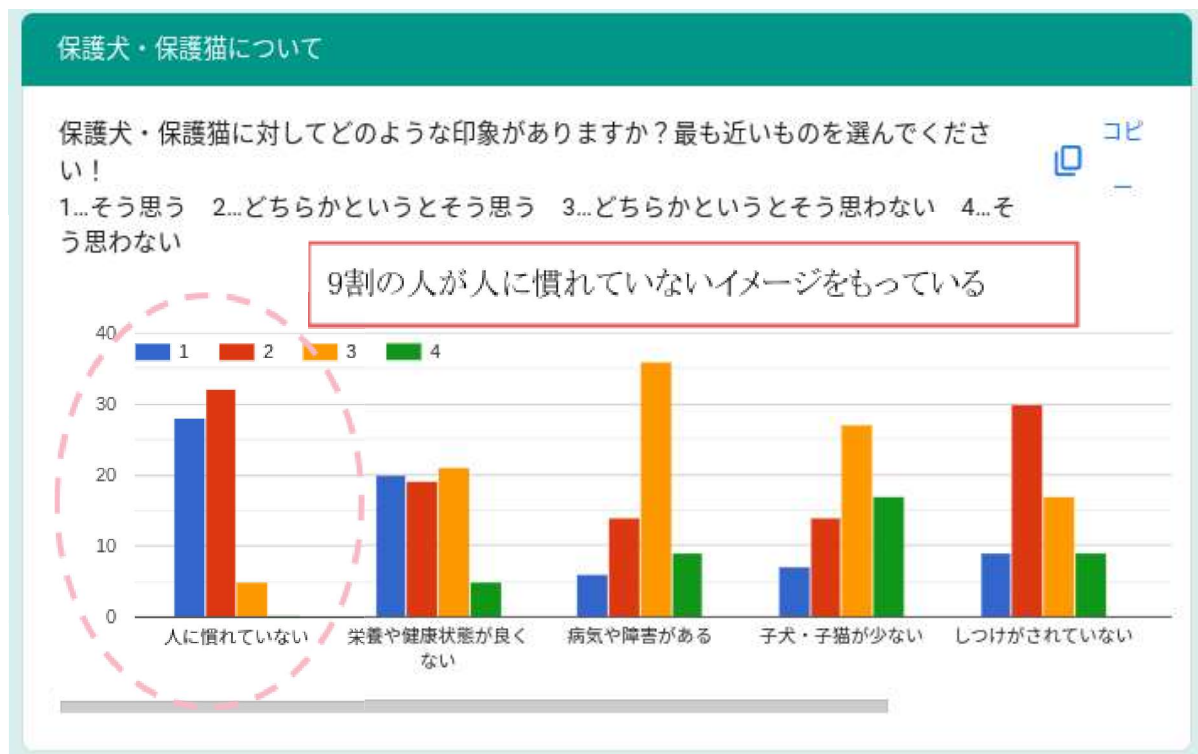
III. 探究内容

●意識調査

現在ペットを飼っている人と飼っていない人に以下の別々の質問をして、意識の差を調べた。



具体的に保護犬・保護猫に対してどのようなイメージをもっているのかを知るために、いくつか項目を設定して自分が最も近いものを選んでもらった。(ペットの有無によらない)



●保護猫シェルター おうちにおいて。

○この活動を行った理由

保護施設の細かい情報はネットにはあまりなく、ネットだけでは知りたい情報が不十分である。そこで一つ一つの施設にじっくり焦点を当てて見てみたいと考えた。施設の方の生の声をお聞きし、実際の動物の様子を自分の目で確かめた。

(表1)質問と回答

	質問内容	回答
1	実際どれくらいの動物がここに来るのか	シェルターにいるのは15匹 シェルターに来る前に保護しておく場所にも何匹かいる
2	里親 ²⁾ は増えているのか	「志村動物園」や「坂上動物王国」などの動物番組によって保護猫という選択肢が前より普通になってきた その影響で増えてきている
3	保護猫を送り出すときの気持ち	嬉しいし寂しい

4	保護猫ならではの苦労・やりがい	最初は人馴れしていない 近づくとしゃーしゃー →だんだん人に馴れてきてくれたとき
5	里親を探すための工夫	ホームページ開設 SNSも行っている 保護猫とゆっくり触れ合えるシェルター 譲渡会ではできない→売り

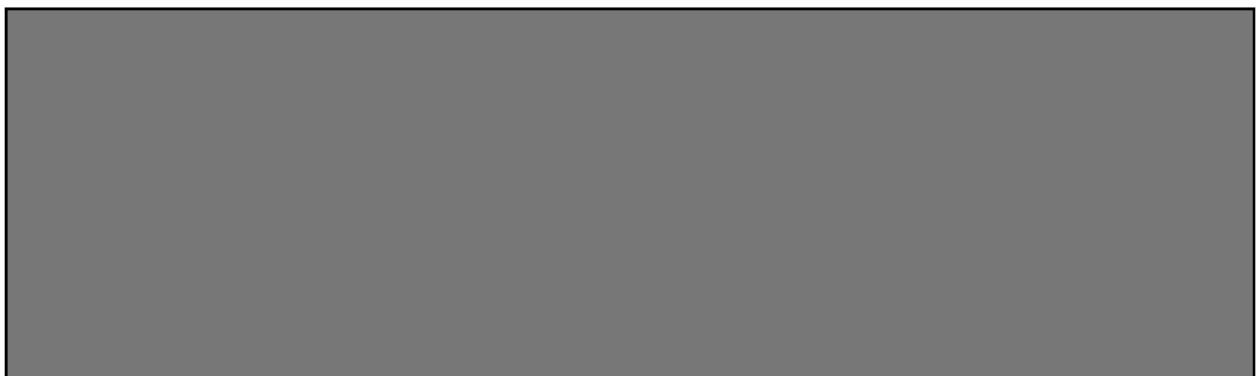
(表2)意識調査を見てもらった上での質問と回答

	質問内容	回答
6	人馴れしていない猫は多いか	今まで人とどう関わってきたかによって個体差はあるが、好きに撫でさせてくれる子はたくさんいる。
7	健康状態がよくないイメージについて実際にはどうか	この施設は健康状態が問題ない成猫15匹をいつでも見れるよう公開している。病気を持っている子や、健康状態が良くない子はいない。

○保護猫とボランティアさんの現状

- ・殺処分防止のため、保健所に持ち込ませないように個人ボランティアさん達が頑張っているけど、どこもキャパオーバー。
- ・無断で猫を捨てに来る人がいるため、場所は非公開にしている。

(図3,図4)はのんびりくつろいでいる猫たち



(図3)

(図4)

IV. 考察

●班としての考察

個人班のため、省略

●個人の考察

ペットを飼っていない人は保護施設から迎え入れたいと考えている人が約2割いるのに対して、実際飼っている人にどこから迎え入れたかを調べてみると、1割未満であった。このことから、昔よりも保護施設にいる動物への興味関心が高まっているのではないかと考えた。その後施設の方のお話から保護犬・保護猫が広がってきていることが確認できた。実際里親は増えていて、理由は動物番組の影響が大きいことがわかった。

意識調査では保護犬・保護猫は人に馴れていないというイメージをもった人が約9割いるが、実際保護施設を訪れてみるとそのイメージは覆された。保護施設の方のお話からも保護猫たちは人に十分懐くようだった。元気な保護猫たちを知らないことが今後の一番の課題だと考えた。

V. おわりに

私は最初から最後まで個人班だったので自由に探究ができた。一方、すべて自分1人でしなければいけないので提出物の締め切り間近になると大変だった。部活が忙しくて2年生の後半からはなかなか探究に時間を割けられない期間もあった。それでも無事終えることができ一安心である。

謝辞

保護猫シェルター おうちにおいで。さん

保護犬&保護猫カフェ 天神橋さん

お話を詳しく伺うことができとても参考になりました。ありがとうございました。

注 1) 物や植物の繁殖および改良に従事する者

2) 保護猫を迎える飼い主のこと

参考文献

毎日新聞 2021年11月25日

毎日新聞 2022年7月1日

神戸新聞 2023年1月18日 まいどなニュース特約・岡部 充代

<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/omoshiro/202212/0015975816.shtml>